

# 今、いちばん気になる統計は？

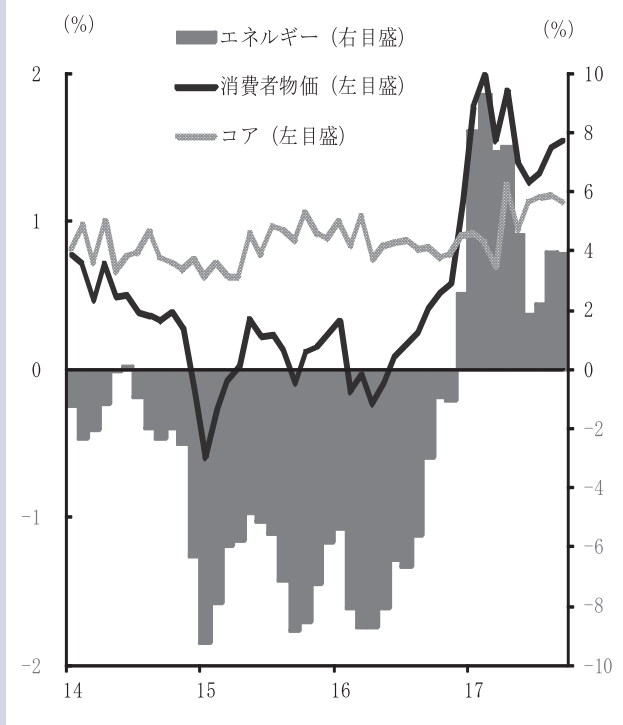
## ユーロ圏の消費者物価

欧州債務危機の激震で、深刻な景気低迷が続いたユーロ圏経済も、ここ数年は順調な回復軌道を辿っている。行き過ぎた財政緊縮路線の見直し、欧州中央銀行(ECB)による金融緩和の効果、雇用情勢改善による個人消費の拡大、企業の投資意欲回復などが景気拡大を後押ししている。

景気の下振れリスクが後退するなか、ECBIはいよいよ来年から金融政策の正常化に着手する。資産買い入れを徐々に減額し、来年中には新規の買い入れを停止するとみられている。ただ、物価の足取りが引き続き鈍いことから、政策金利の引き上げにはなお時間が掛かりそうだ。

一時はデフレ入りの危機も叫ばれたユーロ圏の消費者物価は、景気回復や原油価格の底入れもあり、1%台半ばで推移している。ただ、変動の大きいエネルギーや食料などを除いたコア物価は、緩慢な上昇ペースにとどまっている。国際的な競争の激化から、賃上げや企業の価格転嫁の動きが鈍い状況が続いているためだ。(経済調査部 田中 理)

資料 ユーロ圏の消費者物価の推移(前年比)



(出所) 欧州統計局資料より第一生命経済研究所が作成  
(注) コア物価は食料・たばこ・アルコール・エネルギー除く

## 編集後記

今日は2017/10/5。この号が皆さんのお手元に届く頃には衆議院選挙の結果が出ているはずだ。9月からの解散、新党創設、選挙戦と当たり前だがニュースは政治一色と言ってもいい状況が続いていたが結果が出たところでさあどうする。このところ経済問題は脇に置かれていたような気もするが、デフレ脱却、金融政策、財政再建、消費税、医療年金、教育投資、規制緩和、イノベーション、IoT、AI…引き続き課題は山積みだ。

しかしながら、課題は山積みであるが足元の経済はびっくりするぐらい好調だ。2012/11を谷として始まった景気拡大は途中消費税の引き上げや世界経済の小休止といった逆風がありながらも2017/10で59ヶ月。戦後最長の「いざなぎ景気」(2002/1~2008/2、73ヶ月)越えも視野に入るほど数字上は好景気が続いている。この間、四半期ベースでは2016/1Qから6四半期連続でプラス成長、平均1.7%と明確に潜在成長率を上回る拡大を続けている。人口減少の中で就業者が増えていることに加え、生産性の拡大も成長に寄与しているようだ。また2003年度から2007年度の5年間の名目成長率は平均0.6%であるが、足元2015、2016年度は2.7%、1.1%と実質成長率に並ぶレベルに回復してきた。

それにしてもこの好調さは何だろう。循環による一時的なもの? いやいやアベノミクスでようやくデフレ脱却、潜在成長率ボトムアウト、成長率安定軌道に入った? 失われた20年の終焉、新しい時代の幕開け? どちらにしても遠からず答えは出るような気がする。(H.S)

○第一生命経済研レポートに関するご意見・ご要望は、keizai@dlri.dai-ichi-life.co.jpまでお寄せ下さい。

○本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。